

飢肥城下町における通り名とまち歩きマップによる情報提供

日南市飢肥には、九州で初めて「重要伝統的建造物群保存地区（昭和52年）」に選定された城下町（伊東家5万1千石）がある。飢肥城下町は、狭い路地と伝統的な建築群が保全される街並みは、江戸時代の風情が残る城下町である。しかしながら、訪れた観光客は、既存の城下町地図を見ただけではどの位の距離を歩けば目的地に着くのか、現在地と地図との照合が難しく、飢肥城址と観光駐車場付近の限られた場所にしか足を伸ばさないという現状がある。

当該地域は、通りの一本一本に、江戸時代から受け継がれてきた「通り名」があり、地元の人たちに親しまれていることもあり、その「通り名」を活用し道案内を行うことで、観光客はもっと城下町全体に足を伸ばしてくれるのではないかと考え、通りに通り名を表示し、通り名と位置番号を掲載させたまち歩きマップを作成した。

通り名表示においては、当該地が伝建地区の指定地区であることから、設置箇所、素材、デザインの検討を行った結果、地元で産出される飢肥石を使い、設置箇所は、通りの石垣の根本または天端、側溝の縁、路側の内、可能な箇所に設置することとした。



飢肥まち歩きマップ



←クリックでPDFファイルがダウンロードできます。

まち歩きマップには、「通り名」や「位置番号」を明示する他に、主要な施設の紹介や駐車場・レンタサイクルの貸し出し場所を明示した。



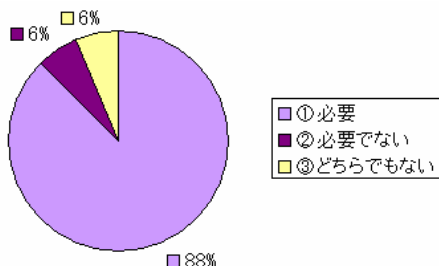
側溝の縁などに設置

アンケート調査結果

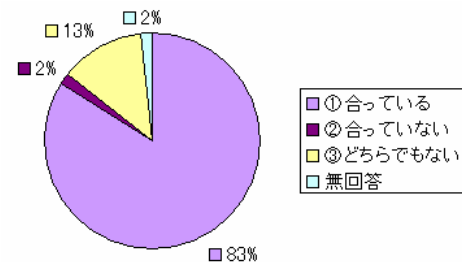
「通り名で道案内」に対する評価を把握するため、飢肥城下町を校区とする小学6年生63人を対象に、地域のまちづくり団体等が、まち歩きマップとあんちよこを片手にガイドとなり、「通り名で道案内」のモニターツアーを実施し、ツアー参加者へアンケート調査を行った。

1. 実施期間：平成21年3月19日（木）
2. 実施方法：直接配布、直接回収
3. サンプル数：63

■約9割の小学生が「通り名は必要」と回答■



■8割以上の小学生が「通り名は町並みにあっている」と回答■



■今回の取り組みの効果として、飢肥城下町が歩きやすくなり、歩行者にとって優しい城下町になったことに加え、地域の人々のおもてなしの意欲が向上するとともに、地域に誇りと地域愛が情勢されたこともあげられる。